



みんなでできる

地球温暖化防止活動

—地中熱って素晴らしいです—

福島県地球温暖化防止活動推進センター

事務局長 鈴木和隆

(特定非営利活動法人うつくしまNPOネットワーク)

ます。もちろん単純には比較できませんが、福島県には地熱が豊富にあるということです。詳細は、環境省が2020年6月26日に公開した「再生可能エネルギー情報提供システム（REPOS・リー・ポス）をご覧ください。

ZEH（ゼッヂ）

地中熱を利用し、エネルギーゼロを実現した新協地水株式会社（郡山市西部工業団地）の新しい事務所を訪問し、代表取締役の佐藤正基さんにお話を伺いました。「ZEHのことですね。ネット・ゼロ・エネルギー・ハウスといいます。創エネ・蓄エネ・省エネでゼロを実現させました。創エネに地中熱を利用して使用すると二酸化炭素（CO₂）、窒素酸化物（NO_x）、硫黄酸化物（SO₂）などを排出します。原子力は、ウランやプルトニウムを使用するという点では、鉱物資源に依存したエネルギーです。

■賦存（ふそん）量と可採量

賦存量とは、制約要因などを考慮せず、現在ある資源を最大限活用したと仮定した場合の理論的な値のことです。可採量とは、実際に利用が可能な量のことです。

賦存量は、太陽光が飛びぬけて多いですが、可採量になりますと福島県の場合、太陽光が125万kWh／年（原油換算）に対し、地熱は42万kWh／年となり

ます。専務取締役の野田明さん、資源開発部長の藤沼伸幸さんも話に加わっていただき、地中熱を低コストで利用できる技術、環境に負荷をかけない回転埋設鋼管杭貫入工法など、専門的なお話もお聞きしました。「中小の企業こそ、工場や事務所で利用できるのが地中熱です。地球にやさしいですよ。」

（連絡先） <http://fukushima-ondankaboushi.org/>